

製品名: 切断型第 Xa 因子活性化 HC (I235) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08989**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	30kDa

抗原情報

遺伝子名	F10
別名	F10; Coagulation factor X; Stuart factor; Stuart-Prower factor
遺伝子 ID	2159.0
SwissProt ID	P00742
免疫原	抗血清はヒト FA10 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 216-265

背景

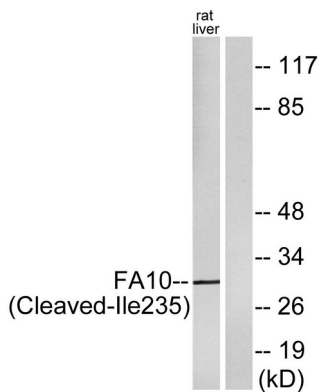
この遺伝子は、血液凝固カスケードのビタミン K 依存性凝固因子 X をコードしています。この因子は、複数の処理段階を経て、そのプレプロタンパク質がトリペプチド RKR の切除によって成熟した 2 本鎖型に変換されます。この因子の 2 本の鎖は、1 つ以上のジス

ルフィド結合によって結合しています。軽鎖には2つのEGF様ドメインが含まれ、重鎖には他の止血性セリンプロテアーゼのものと構造的に相同性のある触媒ドメインが含まれています。成熟した因子は、活性化ペプチドが第IXa因子（内因性経路）または第VIIa因子（外因性経路）によって切断されることによって活性化されます。活性化された因子は、血液凝固中に第Va因子、Ca²⁺、およびリン脂質の存在下でプロトロンビンをトロンビンに変換します。この遺伝子の変異は、重症度が様々な出血性疾患である第X因子欠乏症を引き起こします。代替触媒活性：プロトロンビン中のArg-Ile結合、次いでArg-Ile結合を選択的に切断してトロンビンを形成する。機能：第IXa因子はビタミンK依存性糖タンパク質であり、血液凝固中に第Va因子、カルシウム、リン脂質の存在下でプロトロンビンをトロンビンに変換する。オンライン情報：第X因子のエントリ、PTM：N-およびO-グリコシル化されている。PTM：活性化ペプチドは、第IXa因子（内因性経路）または第VIIa因子（外因性経路）によって切断される。PTM：鉄および2-オキソグルタル酸依存性のアスパラギン酸およびアスパラギンの3位ヒドロキシル化は、EGFドメイン内で（R）立体特異的である。PTM：ビタミンK依存性のグルタミン酸残基の酵素的カルボキシル化により、修飾タンパク質はカルシウムと結合することができる。類似性：ペプチダーゼS1ファミリー。類似性：1つのGla（ガンマカルボキシグルタミン酸）ドメインを含む。類似性：1つのペプチダーゼS1ドメインを含む。類似性：2つのEGF様ドメインを含む。サブユニット：2つの鎖は、2つのArg残基の切除によって単鎖前駆体から形成され、1つ以上のジスルフィド結合によって結合されている。組織特異性：血漿/肝臓で合成される。

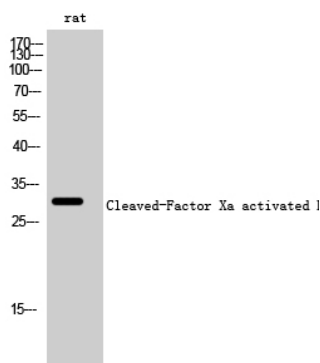
研究分野

補体と凝固カスケード;

画像データ



FA10（活性化重鎖、切断型 Ile235）抗体を用いたラット肝細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



切断因子Xa活性化HC (I235) ポリクローナル抗体を用いたラット細胞のウェスタンブロット解析